

自己評価結果公表シート（平成29年度）

学校法人育保学園 アエしくまのた

1. 本園の教育・保育理念

「一人ひとり」の個性が輝く毎日を送る事ができるような環境を整え、様々な経験と遊びを通じて健全な心身の発達を助長し、情操豊かな子どもの育成を目指す。

2. 本園の教育・保育のねらい

- ・自ら考え、行動する力を育てる。
- ・人を思いやる気持ちを育てる。
- ・集団生活を通して、規範意識を持つ力を育てる。
- ・新しいものを生みだそうとする力を育てる。

3. 本年度重点的に取り組み目標・計画

- ・保育者の資質の向上（研修）
- ・保育環境の見直し
- ・地域との交流を図る

4. 評価項目の達成及び、取り組み状況

評価項目	取り組み状況・結果
○研修 ・平成30年度の実践、指針等の改訂に向けての準備 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、職員それぞれの専門性を高める	・外部講師を招いて法人全体で、保育所保育指針の改訂箇所を確認、保育課程の見直し点等の理解に努めた。職員会議等において、自園に即した保育所保育指針の在り方等を話し合う事で、指針の理解にも繋がった。不十分な点もまだある為、30年度も引き続き、指針を使った。園内研修を実施予定。 ・自己評価と一年間の振り返りを職員会議の中でを行い、園全体、個別でできた点や、できなかった点等の課題を明確化し、次年度に効果的に繋がられるように行った。
○保育環境整備 ・子どもが安心して過ごせる為の環境整備 ・子どもが自然に触れ、のびのびと活動できるよう環境の見直し	・開園一年目の園なので、手探り状態での環境整備になった。また、職員間での環境面のねらい、及び内容の共通理解が不十分だった為、30年度には、十分な話し合いを行い、戸外遊びの環境面での各担当を決めて、遊びの内容、子どもの姿を日々振り返る事で、子どもの興味や関心に合った内容を準備する事ができると思われる。 ・四季折々に咲く花が植わっていたり、遊びに取り入れやすい植物が豊富に植わっていたりするので、子どもに規制を掛けずに、存分に自然物に触れて遊ぶ事ができた。その為、遊びの中に自然物を取り入れて、ごっこ遊びや、木登り等の遊びを楽しむ姿が見られた。
○地域と園の繋がり ・保育の専門性を活かした子育て支援を積極的に行う	・土曜日のみ園庭開放を行ってきたが、周知が不十分なのと、園庭開放に参加する為に、事前に連絡をいれてもらうというわずらわしさもあってか、数人程度しか参加がなかった。赤ちゃんの駅（おむつ交換、授乳場所提供）にも数人の利用があったが、そこからの子育て支援への繋がりが不十分だった。30年度には、平日も園庭開放を行い、又事前に連絡を入れなくても、参加できるように、変えていったり、園庭開放の周知の仕方を検討したりする必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・遊びの環境の充実を図る ・保育者の質の向上 ・地域に根付いた、保育園作り	・日々の振り返りを十分に行い、子どもの姿、発達に合った、環境を整えられるように努める。また、継続性を大切に、日々繰り返し同じ遊びができよう努める。 ・体系的な研修計画を作成し、積極的に研修に参加する。また、研修で得た事を職員間で共有し、園全体の質の向上を図る。 ・平日に園庭開放を行い、地域の子育て世帯が気軽に足を運んでもらえるように努め、保育士ならではの専門性を発揮し、保護者に対して、適切な助言を行ったり、相談に乗ったりする。